

2026年4月 (No.442)

主な内容とページ

日本の半導体市場点検	1
12兆円市場の消失	2
日本市場の規模、異なる2つの数値	4
在庫の影響	5
米国市場の怪	5
半導体、消費地と発注地の乖離	6
日本市場の課題	7
石油危機(SRL だより)	8

日本の半導体市場点検

世界の半導体市場は、大ブーム下にあるが、足元の日本市場はどうなのか、点検した。

1. 主力市場だった国内の家電情報通信機器の生産額はピークから12兆円弱減少。その一方、ハイブリッド車は12兆円、半導体製造装置など3兆円、ロボット1兆円など成長市場が台頭した。
2. 主力市場の激減にも拘わらず日本向け半導体出荷額は24年に最高額を記録、25年も微減と比較的に堅調な推移を維持している。
3. 自動車向け、ロボット向けなど今後も成長が期待されるが、半導体市場全体からみれば、限られた市場であり、AI向けなどコンピュータ、サービス事業向けの開拓、強化が課題だ。

石油危機(SRL だより)

中東での紛争の行方、世界経済への影響が懸念されている。結果次第では、新たな石油危機の勃発をもたらす見方もあり、そのようにはならないことを祈るばかり。1973年の第一次石油危機に社会人1年生となった私は、当時の激変を忘れられない。

何が変わったか。高成長時代からマイナス成長への逆転で、モノ不足、物価高騰、工場閉鎖など頻発。その後の1979年の第二次危機も含めて、良き時代から厳しい、今でいう普通の時代に移行したと思う。半導体では、1976年にCBトランシーバー、79年にインバーダーゲームなど、活況をもたらしたブームもあった。

ところで、石油の調達だが、中東に多くを依存するわが国の体制は、備蓄があるとしても国家運営上は問題があるのではないだろうか。希土類の調達でも、中国依存は、限界があることはわかっている、対策は後手に回り、対応を迫られている。改めて危機管理、対策に取り組むことを世界の変化が示しているのではないか。

(大竹 修)

本誌の内容一覧、索引は、SRL ホームページをご利用ください。

<http://www.semiconresearch.co.jp/>

この資料の複写、複製その他電子的な方法等によるいかなる形での複写利用をお断りします。但しオンライン法人契約を除きます。この資料は公開されている文書および、社会的に信用ある企業、団体等の責任者によって公開された情報を SRL の解釈と分析で表現したものです。 2026 年 著作権所有 株式会社 SRL

SRL Monthly Report

2026年4月(毎月1回発行)第37巻4号(通巻442号)

発行元: 株式会社 SRL

〒187-0011 東京都小平市鈴木町 2-865-67

TEL 042(318)7729

編集・発行人/大竹 修

SRL Monthly Report

April 2026, No.442

Semicon Research Ltd.

2-865-67 Suzuki-Cho, Kodaira -City, Tokyo 187-0011 Japan

Publisher/Editor Osamu Ohtake

© (株)SRL 2026

個人利用購読料金 1 年分 12 号 107,800 円(税込み)